

2026年6月29日

おひさまグリッド5株式会社 御中

REPORT

生物多様性調査レポート



1. 調査概要

案件名	山本おひさま広場メガさんぽ発電所の生物多様性調査
調査期間	2026年6月17日
調査者	株式会社UPDATER（瀬尾一樹、大澤芳子、高橋智里）
調査目的	野立ての太陽光発電所（太陽光パネルの間や周辺／太陽光パネル直下）の生物多様性調査
調査対象地	長野県飯田市山本にある「山本おひさま広場メガさんぽ発電所」。 本発電所は、敷地内の草刈りを実施する際に膝の高さで刈ることで、イネ科雑草を減らし、背丈の低い広葉雑草を増やして、生物多様性を豊かにする管理を行っている。
調査方法	・ 圃場外周を踏査、目視による動植物記録 ・ 捕虫網によるスウィーピングを主とする採集 ・ 1×1mコドラートによる定量的な植生調査
参考資料	・ 長野県版レッドリスト（植物編）2014 ・ 長野県版レッドリスト（動物編）2015 ・ 長野県版レッドデータブック 維管束植物編 ・ 環境省レッドリスト2025（植物）環境省レッドリスト2020（昆虫・その他） ・ 国立環境・研究所侵入生物データベース 等

2. 調査結果

(1) 太陽光パネルの間や周辺の草地

対象	太陽光パネルの間や周辺の草地		
			
環境	・ 太陽光パネルの間や周辺の草地。 ・ フェンスに囲われ、不特定多数の踏み入れのある環境ではない。 ・ 年3回の草刈りを実施。刈高を地際ではなく膝下で行っている。 ・ 隣接した敷地に水路が流れており、調査地内にも湿生植物が部分的に生育している。 ・ ミヤマシジミ保全のため、食草のコマツナギの植栽を行っている。		
確認種数	125種類（うち27種外来） 爬虫類・両生類  1種類 昆虫・クモ類  34種類 *うち外来種2種類 植物類  90種類 *うち外来種25種類		

■生物種目録

レッドデータブック掲載種（長野県,環境省）

外来生物

項番	分類	目	科	種名	個体数	備考
1	爬虫綱	有隣	カナヘビ	ニホンカナヘビ	1	
2	昆虫綱	カマキリ	カマキリ	オオカマキリ	3	幼虫
3	昆虫綱	カメムシ	アブラムシ	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	50以上	
4	昆虫綱	カメムシ	アワフキムシ	マルアワフキ	100以上	
5	昆虫綱	カメムシ	カメムシ	ウズラカメムシ	1	
6	昆虫綱	カメムシ	カメムシ	オオクチブトカメムシ	1	
7	昆虫綱	カメムシ	ヒゲナガカメムシ	ヒゲナガカメムシ	1	
8	昆虫綱	カメムシ	ヘリカメムシ	ツマキヘリカメムシ	1	
9	昆虫綱	カメムシ	ヘリカメムシ	ハリカメムシ	1	
10	昆虫綱	コウチュウ	コガネムシ	マメコガネ	1	
11	昆虫綱	コウチュウ	テントウムシ	ナナホシテントウ	1	
12	昆虫綱	コウチュウ	ハネカクシ	オオヒラタシデムシ	1	
13	昆虫綱	チョウ	シジミチョウ	ツバメシジミ	1	
14	昆虫綱	チョウ	シジミチョウ	ベニシジミ	1	
15	昆虫綱	チョウ	シジミチョウ	ルリシジミ	1	
16	昆虫綱	チョウ	シャクガ	ヒメシャク亜科の一種	1	
17	昆虫綱	チョウ	シロチョウ	モンキチョウ	2	
18	昆虫綱	チョウ	シロチョウ	モンシロチョウ	1	
19	昆虫綱	チョウ	タテハチョウ	ヒメウラナミジャノメ	2	
20	昆虫綱	チョウ	ヒトリガ	カノコガ	1	
21	昆虫綱	ハエ	クロバエ	ツマグロキンバエ	1	
22	昆虫綱	ハエ	タマバエ	ヨモギシロケフシタマバエ	1	虫こぶ
23	昆虫綱	ハチ	アリ	クロヤマアリ	4	
24	昆虫綱	ハチ	アリ	ケアリ属の一種	100以上	
25	昆虫綱	バッタ	キリギリス	ヒメギス属またはコバネヒメギス属の一種	4	幼虫のため未同定。分布、形態、体色などからヒメギス、ミヤマヒメギス、コバネヒメギスの可能性がある。
26	昆虫綱	バッタ	バッタ	ショウリョウバッタ	2	幼虫
27	昆虫綱	バッタ	バッタ	ナキイナゴ	10以上	
28	昆虫綱	バッタ	バッタ	ヒナバッタ	1	
29	クモガタ綱	クモ	カニグモ	カニグモ属の一種	1	
30	クモガタ綱	クモ	カニグモ	ハナグモ	1	
31	クモガタ綱	クモ	カニグモ	フジグモ	2	
32	クモガタ綱	クモ	コガネグモ	コガネグモダマシ	1	
33	クモガタ綱	クモ	コガネグモ	ナガコガネグモ	1	
34	クモガタ綱	クモ	コマチグモ	カバキコマチグモ	3	
35	クモガタ綱	クモ	ササグモ	クリチャササグモ	1	
36	シダ植物	ウラボシ	オシダ	オオベニシダ		
37	シダ植物	ウラボシ	コバノイシカグマ	ワラビ		
38	シダ植物	ウラボシ	チャセンシダ	トラノオシダ		
39	シダ植物	ウラボシ	ヒメシダ	コゲジゲジシダ		
40	シダ植物	ウラボシ	ヒメシダ	ミドリヒメワラビ		
41	シダ植物	ウラボシ	メシダ	シケシダ		
42	シダ植物	トクサ	トクサ	スギナ		
43	被子植物	イネ	イグサ	イ		
44	被子植物	イネ	イグサ	スズメノヤリ		
45	被子植物	イネ	イネ	アオカモジグサ		
46	被子植物	イネ	イネ	アシボソ属の一種		
47	被子植物	イネ	イネ	オオナギナタガヤ		
48	被子植物	イネ	イネ	オニウシノケグサ		
49	被子植物	イネ	イネ	カモジグサ		
50	被子植物	イネ	イネ	ススキ		
51	被子植物	イネ	イネ	スズメノチャヒキ		
52	被子植物	イネ	イネ	ナギナタガヤ		
53	被子植物	イネ	イネ	ヌカボ属の一種		

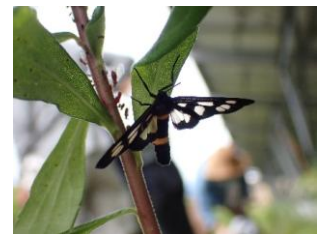
4. マルアワフキ（昆虫・クモ類）



13. ツバメシジミ（昆虫・クモ類）



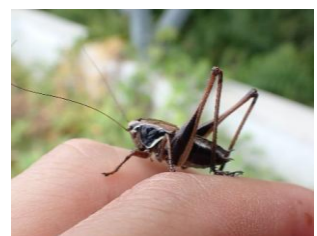
20. カノコガ（昆虫・クモ類）



27. ナキイナゴ（昆虫・クモ類）



25. ヒメギス類（昆虫・クモ類）



28. ヒナバッタ（昆虫・クモ類）



54	被子植物	イネ	イネ	ノゲシバムギ		
55	被子植物	イネ	イネ	ハルガヤ		
56	被子植物	イネ	イネ	フシゲチガヤ		
57	被子植物	イネ	カヤツリグサ	アズマナルコ		
58	被子植物	イネ	カヤツリグサ	ゴウソ		
59	被子植物	イネ	カヤツリグサ	スゲ属の一種		
60	被子植物	イネ	カヤツリグサ	ヒゴクサ		
61	被子植物	カタバミ	カタバミ	オッタチカタバミ		
62	被子植物	カタバミ	カタバミ	カタバミ		
63	被子植物	キク	キク	オニタビロコ（広義）		
64	被子植物	キク	キク	キクイモ		
65	被子植物	キク	キク	シオン属の一種		
66	被子植物	キク	キク	セイタカアワダチソウ		
67	被子植物	キク	キク	セイヨウノコギリソウ		
68	被子植物	キク	キク	タンポポ属の一種		外来性タンポポ種群と思われる
69	被子植物	キク	キク	ニガナ		
70	被子植物	キク	キク	ハハコグサ		
71	被子植物	キク	キク	ヒメジョオン		
72	被子植物	キク	キク	フキ		
73	被子植物	キク	キク	フランスギク		
74	被子植物	キク	キク	ヨモギ		
75	被子植物	キジカクシ	ヒガンバナ	ナビル		
76	被子植物	キジカクシ	ワスレグサ	ノカンゾウ		
77	被子植物	キントラノオ	スミレ	スミレ属の一種		ニョイスミレまたはアギスミレ。
78	被子植物	キンボウゲ	キンボウゲ	カザグルマ		
79	被子植物	キンボウゲ	キンボウゲ	ボタンツル		
80	被子植物	キンボウゲ	ツツラフジ	アオツツラフジ		
81	被子植物	シソ	オオバコ	オオイヌノフグリ		
82	被子植物	シソ	オオバコ	オオバコ		
83	被子植物	シソ	オオバコ	ヘラオオバコ		
84	被子植物	シソ	シソ	カキドオシ		
85	被子植物	シソ	シソ	マルバハッカ		
86	被子植物	セリ	ウコギ	オオチドメ		
87	被子植物	セリ	ウコギ	タラノキ		
88	被子植物	セリ	セリ	オヤブジラミ		
89	被子植物	ツツジ	サクラソウ	コナスビ		
90	被子植物	ツツジ	サクラソウ	ヌマトラノオ		
91	被子植物	ツユクサ	ツユクサ	オオムラサキツユクサ		がく先端部以外にも毛がある
92	被子植物	ツユクサ	ツユクサ	ツユクサ		
93	被子植物	ナデシコ	タデ	イシミカワ		
94	被子植物	ナデシコ	タデ	ウナギツカミ		
95	被子植物	ナデシコ	タデ	エゾノギシギシ		
96	被子植物	ナデシコ	タデ	スイバ		
97	被子植物	ナデシコ	ナデシコ	ウシハコベ		
98	被子植物	ナデシコ	ナデシコ	オランダミナグサ		
99	被子植物	ナデシコ	ナデシコ	ノミナヅリ		
100	被子植物	ナデシコ	ヒユ	ヒナタイノコツチ		
101	被子植物	バラ	アサ	カナムグラ		
102	被子植物	バラ	クワ	ヤマグワ		
103	被子植物	バラ	バラ	キンミズヒキ		
104	被子植物	バラ	バラ	ナワシロイチゴ		
105	被子植物	バラ	バラ	ニガイチゴ		
106	被子植物	バラ	バラ	ノイバラ		
107	被子植物	バラ	バラ	ヤブヘビイチゴ		
108	被子植物	フウロソウ	フウロソウ	アメリカフウロ		
109	被子植物	フウロソウ	フウロソウ	ゲンノショウコ		
110	被子植物	ブドウ	ブドウ	ヤブカラシ		
111	被子植物	フトモモ	アカバナ	メマツヨイグサ		
112	被子植物	マツムシソウ	スイカズラ	スイカズラ		
113	被子植物	マメ	マメ	アレチヌスビトハギ		
114	被子植物	マメ	マメ	コマツナギ		ミヤマシジミ保全のため植栽

31. フノジグモ（昆虫・クモ類）



34. カバキコマチグモ（昆虫・クモ類）



32. コガネグモダマシ（昆虫・クモ類）



37. クリチャササグモ（昆虫・クモ類）



60. ヒゴクサ（植物類）



87. タラノキ（植物類）



115	被子植物	マメ	マメ	シロツメクサ		
116	被子植物	マメ	マメ	ネムノキ		
117	被子植物	マメ	マメ	ムラサキツメクサ		
118	被子植物	マメ	マメ	ヤハズエンドウ		
119	被子植物	マメ	マメ	ヤブマメ		
120	被子植物	ムクロジ	ウルシ	ヌルデ		
121	被子植物	ヤマノイモ	ヤマノイモ	ナガイモ		
122	被子植物	ユキノシタ	ユキノシタ	チダケサシ		
123	被子植物	ユリ	ユリ	シンテッポウユリ		タカサゴユリとされるものを含む
124	被子植物	リンドウ	アカネ	ヘクソカズラ		
125	被子植物	リンドウ	キョウチクトウ	ガガイモ		

90. ヌマトラノオ（植物類）



確認された絶滅危惧種

2種類（長野県、環境省レッドデータブックをそれぞれ参照。情報不足含む）

カザグルマ（植物類）

環境省▶準絶滅危惧種（NT）

長野県▶絶滅危惧ⅠA類（CR）

フェンス沿いに一株生育していました。林縁部を好む種類で、園芸目的による採取や土地の造成などにより減少しています。

本調査地は通常フェンスで囲まれ施錠されているため、採取により消滅する可能性が低く、本種の保全に適した環境と考えられます。



ウナギツカミ（植物類）

長野県▶情報不足（DD）

最後列のパネル周辺の、湿性植物が多く生育するエリアに一株生育していました。適度な攪乱（膝下での刈り取り）があり、湿生植物の生える明るい環境が維持されていることが本種の生育に寄与していると考えられます。

「情報不足」の根拠は公開されていませんが、長野県では希少であるという前提のもと保全していくことが望ましいです。





階層構造	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
草本層	セイタカアワダチソウ	0.3	70%	-

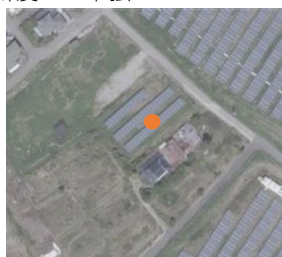
階層	種名	被度・群度	
草本	セイタカアワダチソウ	3	4 被度 5 : 3/4~
草本	ヨモギ	2	3 被度 4 : 1/2~3/4
草本	スギナ	2	3 被度 3 : 1/4~1/2
草本	セイヨウノコギリソウ	2	3 被度 2 : 1/4~1/10
草本	ヒメジョオン	2	2 被度 1 : ~1/10
草本	シロツメクサ	1	2 被度 + : 個体数・被度共に少ない
草本	ヤブヘビイチゴ	1	1 被度 r : 極めてまれ
草本	ヘクソカズラ	1	1
草本	ボタンヅル	1	1 群度 5 : カーペット上に1面に生育
草本	ススキ	1	1 群度 4 : 大きなまだら状または カーペットに穴あき状態
草本	アメリカフウロ	+	
草本	オランダミミナグサ	+	群度 3 : 小群のまだら状
草本	コナスビ	+	群度 2 : 小群状
草本	オニタビラコ (広義)	+	群度 1 : 単独
草本	カタバミ	+	
草本	ニョイスミレ	+	



電子地形図25000 (国土地理院) を加工して作成



階層構造	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
草本層	ススキ	0.6	90	-

[illegible]

電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成

(2) 太陽光パネル直下

対象	太陽光パネル直下
	
環境	・ 太陽光パネル直下部。 ・ シダ植物が優占し、周囲の草地とは明確に異なる環境。 ・ 太陽光パネルの支柱などをクモ類などが利用している。
確認種数	56種類（うち6種外来） 爬虫類・両生類  1種類 昆虫・クモ類  7種類 植物類  48種類 *うち外来種6種類

■生物種目録

レッドデータブック掲載種（長野県,環境省）

外来生物

項番	分類	目	科	種名	個体数	備考
1	爬虫綱	有隣	カナヘビ	ニホンカナヘビ	1	
2	昆虫綱	カメムシ	ヘリカメムシ	ハラビロヘリカメムシ	3	
3	昆虫綱	チョウ	ヤガ	フクラスズメ	1	幼虫
4	昆虫綱	ハチ	ミツバチ	クマバチ	1	
5	クモガタ綱	クモ	コガネグモ	ギンメッキゴミグモ	2	
6	クモガタ綱	クモ	コガネグモ	コガネグモ	1	
7	クモガタ綱	クモ	コガネグモ	ゴミグモ	3	
8	クモガタ綱	クモ	ヒメグモ	シロカネイソウウグモ	1	
9	シダ植物	ウラボシ	オシダ	アイノコクマワラビ		
10	シダ植物	ウラボシ	オシダ	オオベニシダ		
11	シダ植物	ウラボシ	オシダ	テリハヤブソテツ		
12	シダ植物	ウラボシ	オシダ	ヤブソテツ		
13	シダ植物	ウラボシ	オシダ	リョウメンシダ		
14	シダ植物	ウラボシ	コウヤワラビ	クサソテツ		
15	シダ植物	ウラボシ	コウヤワラビ	コウヤワラビ		
16	シダ植物	ウラボシ	コバノイシカグマ	ワラビ		
17	シダ植物	ウラボシ	ヒメシダ	コゲジゲジシダ		
18	シダ植物	ウラボシ	ヒメシダ	ミドリヒメワラビ		
19	シダ植物	ウラボシ	メシダ	イヌワラビ		
20	シダ植物	ウラボシ	メシダ	シケシダ		
21	シダ植物	ゼンマイ	ゼンマイ	ゼンマイ		
22	シダ植物	トクサ	トクサ	スギナ		
23	被子植物	イネ	イグサ	イ		
24	被子植物	イネ	イネ	カニツリグサ		
25	被子植物	イネ	イネ	ススキ		
26	被子植物	イネ	イネ	ドジョウツナギ		
27	被子植物	イネ	カヤツリグサ	ジュズスゲ		
28	被子植物	イネ	カヤツリグサ	ヒゴクサ		
29	被子植物	イネ	カヤツリグサ	メアオスゲ		
30	被子植物	カタバミ	カタバミ	カタバミ		
31	被子植物	キク	キク	セイタカアワダチソウ		
32	被子植物	キク	キク	ハルジオン		
33	被子植物	キク	キク	ヒメジョオン		
34	被子植物	キク	キク	ヨモギ		
35	被子植物	キンボウゲ	アケビ	アケビ		
36	被子植物	キンボウゲ	キンボウゲ	コボタンヅル		
37	被子植物	キンボウゲ	ケシ	タケニグサ		
38	被子植物	キンボウゲ	ツツラフジ	アオツツラフジ		
39	被子植物	シソ	シソ	マルバハッカ		
40	被子植物	セリ	セリ	オヤブヅラミ		
41	被子植物	ツユクサ	ツユクサ	ツユクサ		
42	被子植物	ナデシコ	タデ	スイバ		
43	被子植物	ナデシコ	ナデシコ	ウシハコベ		
44	被子植物	ナデシコ	ヒユ	ヒナタイノコヅチ		
45	被子植物	バラ	イラクサ	メヤブマオ		
46	被子植物	バラ	バラ	ナウシロイチゴ		
47	被子植物	バラ	バラ	ニガイチゴ		
48	被子植物	ブドウ	ブドウ	ヤブカラシ		
49	被子植物	フトモモ	ミソハギ	サルスベリ		
50	被子植物	マメ	マメ	クズ		
51	被子植物	ムクロジ	ムクロジ	イロハモミジ		
52	被子植物	ヤマノイモ	ヤマノイモ	ナガイモ		
53	被子植物	ユキノシタ	ユキノシタ	チダケサシ		
54	被子植物	ユリ	サルトリイバラ	サルトリイバラ		
55	被子植物	ユリ	サルトリイバラ	サルマメ		
56	被子植物	リンドウ	アカネ	ヘクソカズラ		

1. ニホンカナヘビ（爬虫類）



2. ハラビロヘリカメムシ（昆虫・クモ類）



3. フクラスズメ（昆虫・クモ類）



6. コガネグモ（昆虫・クモ類）



7. ゴミグモ（昆虫・クモ類）



8. シロカネイソウウグモ（昆虫・クモ類）





階層構造	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
草本層	オオベニシダ	0.5	100	-

階層	種名	被度・群度	
草本	オオベニシダ	3	4 被度 5 : 3/4~
草本	イヌワラビ	3	4 被度 4 : 1/2~3/4
草本	シケシダ	2	2 被度 3 : 1/4~1/2
草本	イノコヅチ	+	被度 2 : 1/4~1/10
草本	ニガイチゴ	+	被度 1 : ~1/10
草本	カラスビシャク	+	被度 + : 個体数・被度共に少ない
			被度 r : 極めてまれ
			群度 5 : カーペット上に1面に生育
			群度 4 : 大きなまだら状または カーペットに穴あき状態
			群度 3 : 小群のまだら状
			群度 2 : 小群状
			群度 1 : 単独



電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成



階層構造	優占種	高さ (m)	植被率 (%)	胸高直径 (cm)
草本層	オオベニシダ ^a	0.4	90	-

[illegible]

電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成

3. ご提案

当調査地は現状でも地域の生物多様性保全に寄与している魅力的な環境ですが、さらに良い環境を目指すためにできることを提案します。

1. 生物多様性の観点から見た当調査地の魅力

(1) 環境の多様性

本調査地は、パネル周辺の通常の草地に加え、最後列のパネル周辺の湿性植物が多く生える草地、パネル直下の日陰を好む植物が優占する草地の大きく3種類の環境、そしてそれぞれの移行帯が見られます。

生物多様性を構成する要素の一つに「生態系の多様性」がありますが、限られた面積の中に多くの環境を包括する本調査地の特性は、生物多様性をアピール、説明する際に有効な要素になり得ます。



▲本来明るい湿地周辺などに多く生育するイ（イグサ）。

(2) パネル直下との違い

特にパネル直下の草地は、リョウメンシダのような林野の沢合いなどを好む種が多く見られ、特異な環境です。また、パネルの支柱などを利用して多様なクモ類が生息していました。植生の成立する要因には日陰になっていることの他に土壌湿度なども関係していると思われますが、「太陽光パネルがあることによりその場所の生物多様性を高めている」といえます。



▲本来林野の沢合いなどに生育するリョウメンシダ。他にもシダ植物が多く生育している。

2. より良い環境を目指すために

(1) 草種ごとの選択的な刈り取り

膝下での刈り取りを継続しつつ、草種に応じ部分的に刈り取りの方法を変えると、より多様性の高い植生となります。

具体的には、**侵略的外来植物は地際で刈り（もしくは抜き取り）、残したい在来植物は結実するまで刈り取りをしない**というものです。

ただし、刈り取り作業前に残す植物、地際で刈る植物を同定し確認しなければいけないため、作業を行う人員、対象とする草種に制限があります。



▲残したい在来植物はなるべく開花結実するまで刈り取りしないことが望ましい

（２）蜜源となる外来植物の取り扱い

外来植物による在来植物への影響は多岐にわたります。生育することで在来植物の生育場所を奪ってしまうこと、訪花昆虫が集中することで在来植物の受粉機会（繁殖機会）が失われてしまうこと、花粉が在来植物の柱頭につくことなどによる繁殖成功度の低下（繁殖干渉）などが考えられます。

昆虫相についても、外来植物が蜜源として役に立っている場合でも、外来植物の花を利用できる特定の昆虫のみが増える（競合する他の昆虫が減る可能性）、在来植物が減ることによりそれに依存していた昆虫が減るなどの影響が考えられます。

個々の外来植物が与える影響についてはわかっていないことも多いですが、**生物多様性をより高めるためには、外来植物は蜜源となるものでも減らしていき、代替となる在来植物の増加、誘致を図ることが望ましいです。**



▲外来植物のフランスギク。昆虫類の蜜源となりうるが、減らしていくことが望ましい。

（３）モザイク状の刈り取り

選択的な刈り取りとは別に、刈高や刈り取り頻度を様々に設定し、モザイク状の環境をつくることも有効です。

一般的に、競争に強い植物種を抑えるには攪乱（刈り取りなど）またはストレスを強めると良いとされています（GrimeのCSRモデルを参照）。

攪乱となる刈り取りの強度を様々にすれば、その攪乱あるいは競争のレベルに応じた植物種が生育できるようになります。通常、刈り取り頻度が高いとシバが、中程度だとチガヤが、低いとススキが優占する環境になります。

また、多様な草丈が存在すると、草地性昆虫類の多様性も高まります。



▲今回確認されたオオカマキリは比較的高い草丈のある草地を好む。

（４）チガヤ主体の草地

現状、本調査地はチガヤ（今回は変種フシゲチガヤを記録）の優占するチガヤ型草地といえます。チガヤ型草地は、多くの草種が共存できる、高い種多様性を持つ草地になり得るものです。

理想的な管理としては、**現状のチガヤ型草地を主体としつつ、部分的に攪乱強度を変化させるモザイク状の環境をつくり、減らす草種、増やす（開花結実まで刈らない）草種を設定してコントロールする管理**が考えられます。実際の作業負荷も考慮してご検討ください。

刈り取り作業の難易、労力、太陽光パネル維持管理の都合なども考慮して、実現・継続可能な範囲を探っていくことが望ましいです。



▲チガヤの優占する草地（撮影は刈り地点）。今回の調査では「フシゲチガヤ」として記録。

（５）刈り取り残渣の一時的な残置

刈り取りにより発生した刈り取り残渣を一時的に残置することによって、**ついていた昆虫類などが移動し、刈り取りによる昆虫類などへの影響をより少なくすることができます。**

また、結実した種子のついた刈り取り残渣は、残置することで種子が発芽し、それそのものが草地再生の有効な資材となります。



▲刈り取り残渣の一時的な残置により、付着した昆虫類への影響を少なくできる

（６）種類を決めたモニタリング調査

管理方法の変化による生物多様性の向上を測定するために、指標となる種類を決めたモニタリング調査が一つの方法となります。通常、生物調査には一定以上の同定技術が必要ですが、**識別が比較的容易かつ目指したい環境を好む生物種であれば、同定技術に関わらず環境の変化を測定できます。**

たとえば、ノカンゾウやカザグルマなど識別容易な種について、毎年開花期に花茎の数を数えるなどの方法が取れます。ニホンカナヘビなどの動物をターゲットとすることも可能です。

フランスギクなどの外来動植物についても、管理方法の変化による増減の測定ができます。



▲開花期の識別が容易なノカンゾウなどは調査対象種になりうる

以上

みんな大地

緑豊かな大地は、地球とみんなを元気にする。

「土壌」は1兆5000億トンの炭素を貯留する重要なCO2吸収源であり、多様な微生物を育み、地上の豊かな生物を支える役割を果たしています。「みんな大地」は、土壌診断サービスによる「土壌の見える化」を行い、土壌再生による地球温暖化防止効果と農業生産性向上をめざしています。

公式WEBサイト
はこちら ▼

